

令和6年度第2回 福岡市市民公益活動推進審議会

- 1 **開催日時** 令和7年2月3日（木）14：00～15：30
- 2 **場 所** NPO・ボランティア交流センターあすみん セミナールームBC
- 3 **議 題**
 - （1）基本方針に基づく施策の実施状況について
 - （2）市民公益活動の推進に係る施策 基本方針 主要施策の見直しについて
- 4 **出席者** （出席委員7名）
今井委員、曾我部委員、辻委員、寺島委員、
萩沢委員、藤本委員、吉村委員
- 5 **傍聴者** なし
- 6 **議事概要**

【審議】基本方針に基づく施策の実施状況について

資料に基づき説明

- 【会 長】 事務局からの説明についてご意見、ご質問を。
- 【委 員】 3ページ「基本目標1の事業の進捗状況」で、小・中・高・大学生を対象とした出前講座の受講者数が、令和4年度に比べて令和5年度はかなり減少しているが、原因は把握しているのか。
- 【事務局】 4ページに過去3か年の受講者数を掲載している。令和4年度だけ突出しているのは、実施校数が多いのもあるが、学校の要望により対象人数（全校単位、学年単位など）が多かったためである。
- 【委 員】 3ページの「企業等従業員のボランティア参加者数」についても減少しているが、原因は把握しているのか。
- 【事務局】 ボランティア体験プログラム「ハジメのイッポ」の参加者数であるが、こちらも企業からの要望に応じてのものであるため、減少した要因は把握できていない。
- 【委 員】 19ページ共働推進事業の実施状況の、実施概要「第1共働テーブル」に記載の内容はマッチングの事例だと思うが、「第2マッチング事例」の所では

なく「共働テーブル」に掲載している理由は何か。

【事務局】 NPO等や市担当課からの共働に関する相談を受け付ける窓口として「共働テーブル」を設置しており、本事案はNPO法人与行政機関とが繋がったという意味で「共働テーブル」の事例として掲載している。

【委員】 「第2マッチング」の事例に入れた方がよい気がする。共働テーブルはマッチングではなく、例えばNPOから事業を行いたいと思うが、担当課が分からないと相談された際に、話し合いの場を設け新しい事業を生み出していく、そのための相談の場だと理解していた。マッチングではなく、そのように使ってほしいと、もっと打ち出していく方がよいと思うし、NPOとしても相談する意味が出てくるのではないかと思う。

【事務局】 マッチングも大事ではあるし、どうしたらいいのか分からないから相談し新規事業に繋がったというような相談もあり、そこを分けて分析することで、それぞれに必要な支援の在り方が見え、後々活かしていけると思う。

【委員】 NPOの活動のきっかけは、どうしても法制度や行政サービスの隙間に抜け落ちるところが多いと思う。従来の枠組みで発信すると、課題の解決方法は限定化されてしまう。そのあたりの自由度という意味でも大切なことだと思う。

20 ページ「第4アウトリーチ・ハンズオンによるNPO支援」について、事業の推移として何か数値や内容の評価などがあれば教えてほしい。

【事務局】 今年度については、11のNPO団体に対し伴走支援を行っている。

【委員】 私たちも令和5年度に、当事業に先輩NPOの立場に関わった。その時に、感じたこととして、前回の会議で話をしていたプロボノとの関係性の構図に似ている部分があったのでお話をさせてほしい。

ある団体に対し、先輩NPOとして2時間ほど話をする機会をもらったが、どうしても私たちの方が経験があるため、いらぬお節介をかけないように気を付けるのは大変だったので、間に中間支援組織のNPOに入ってもらった。プロボノの方も、職業として専門性の高い立場から、どうしても教えてあげようというスタンスになりやすい。その時に、NPOの主体性の一部が奪われるような状況になりかねない。やはり、コーディネーターが必要に

なると感じた。

ボランティアについても比較的同じようなことがあると思う。私たちもボランティアをお願いすることは多い。その時に、特に肝に銘じているのが無報酬で関わる労働として捉えないこと。あくまで主体的に関わってくださる方で、その意思を法人として受け止め、関係の対等性を強く意識しておかないと、支援する側と支援を受ける側のような上下関係にどうしてもなりやすい。

この資料でもボランティアを定量評価するのはとても大事なことはあるが、やはりその中身がとても大事で、市民がプライベートな時間を使って主体的に活動をすることの意味を強く感じた。意見ではないが、ボランティアの方に対する誠実な付き合い方を改めて考える機会にもなったためお伝えした。

【委 員】 6 ページ「施策目標（２）２成果・課題」について、市政だよりやSNSでの広報でふるさと納税からの寄付が大きく増加したというところは懐疑的ではあるが、寄付を集めるために、市から企業に対してどの程度の働きかけをしているのかがよく分からない。例えば、イオン九州からの寄付は営業活動を行ったからなのか、たまたま持ち込まれたのかでも違う。また、寄付の半分がイオン九州からなので、イオン九州が撤退すると寄付が大きく減ることになる。

結婚式の引出物によくあるカタログギフトでも、ユニセフへの寄付などができるようになっているが、弊社では、買い物をしたらポイントが溜まり、そのポイントを寄付することができる。例えば、博多祇園山笠やアビスパ福岡の公式サポーターに寄付するなど、寄付先を増やす活動をしている。どここの企業も、無関心ではないと思うので、もう少し企業からの寄付が増えないのかという気がする。マンパワーには限界があると思うし、営業活動みたいなことはしづらいのかもしれないが。

【事務局】 イオン九州からは、福岡市との包括連携協定に基づき、ご当地WAONカードの利用金額の0.1%を寄付いただいている。企業への呼びかけについては、企業へ出向いてお話したこともあるが、寄付に繋げることは難しかったため、

デジタルサイネージを活用した広報などを行っている。

【委員】 企業に対し、市ホームページでの紹介や税制上の優遇措置があることを広報していると聞いたが、福岡市に寄付したことを証明するオリジナルのマークを作るのはどうか。それを、企業側のホームページに掲載してもらうことで、企業は社会貢献をしていることをPRできるし、他の企業へPRすることにもなるので検討してもらいたいと思う。

【委員】 これまでの話に関連して、市民公益活動の推進を考えた時に、やはり財政的な基盤が無いと難しい。NPOも奉仕で行っているわけではないと思うので、そこを強化しないと活動が広がっていかないと思う。

財政的に基盤のある企業が関わりをもつなど、NPOが活動できる環境を作らないと基盤強化につながらない。

活動しているNPOの数が少ない。継続して活動するNPOが育っていかないと活性化しない。

そのような環境が整った時に、それをどう活かすかは行政にあると思う。NPOのことを理解し、いろんな情報を察知し、必要としているところに結び付けてもらいたい。そのような流れを作る基盤が弱いように感じる。「あすみん」やNPOが出来ることを地域が理解し、連携できることはまだあると思う。

【委員】 やはりボランティアをする人には自主性などを理解してもらう必要がある。また、ボランティアしてもらう側が、労働力として使うようなことがあればボランティアを継続してもらえない。そのようなボランティアの心得のようなことを懇談会や学習会をして、その結果、得られるものがあると思う。個人と団体でお互い気を付けてスムーズにやりましょうというものがあるといいと思う。

【委員】 ボランティア活動を推進するにあたって、活動拠点としての「あすみん」の位置付けは大きい。一方で、福岡市全体を見渡した時に「あすみん」を利用できる団体は、距離の問題があり限られる。そこで、鍵となるのは公民館だと思う。ボランティア活動の状況を把握するにあたり、NPOないしボランティア団体の公民館の利用率のデータはあるか。

- 【事務局】 手元にデータがないが、公民館の利用者として多いのは地域住民や地域団体である。NPOは志縁団体になるので具体的な関わりがあり、よく利用していることはあると思うが、総じて公民館を利用している率はあまり高くないと思う。どちらかというと、校区単位の公民館に近い部分でいうと社会福祉協議会になるかと思う。
- 【委員】 ボランティア活動を推進するにあたって、公民館を利用促進することは出来ないのか。
- 【委員】 公民館では、地域活動の中でどういったことをやりたいのか、今やっていることがどうなのか、改めていきたいという流れはある。それを公民館職員がどこに結び付けていけばよいのか、どこにもっていけば解決するのか模索しているのが現状だと思う。公民館の職員に「あすみん」の活動内容が伝わっていけばと思う。
- 【事務局】 公民館の実情は、地域住民がちょっとしたボランティアを行う場所で、NPOのようにしっかり組織立つと、その土地に入り込むことはあまりない。サークル活動や住民同士の学習グループなど、ボランティアの始まりが生まれる場所であり、小さな社会貢献の芽は公民館にあると思う。そのような公民館という場所でいろいろな情報が手に入り、同じような活動をしている団体と交流ができるようになれば、1つのボランティアの芽がたくさん繋がり団体が生まれていくかもしれない。そういった意味で、公民館は地域で1番身近で気軽に使ってもらえる場所なので、たくさんの可能性を秘めた場所だと思う。
- 【委員】 NPO同士の連携はどうなのか。
- 【事務局】 「あすみん」では、NPO同士が繋がる交流会を実施している。
- 【委員】 それ以外では、中間支援組織が開催する研修会がある。集まったNPO同士で繋がり連携することはよくある。
- 【委員】 NPOと地域を繋ぐセクションがやはり重要である。コントロールするセクションを強化しないといけない。必要とする地域やそれに答えようとするNPOがある。繋ぐことは難しいとは思いますが、それが出来ればもっと活動が推進できるのではないか。「あすみん」をもっとアピールしないと、地域

では、活用したいというところまで考えが及んでいない。せっかくそういう場があるので、ぜひ活用していきたいし、活用させてほしい。

【委 員】 「あすみん」で組織基盤強化の講習会が開催されているが、参加することで横に繋がることはよくある。NPO同士が連携できるきっかけとしてもよいと思う。

【事務局】 NPO同士も、場所やきっかけがなければ繋がりには生まれない。地域とNPOも同じ。きっかけとなる交流会などがあることで、それぞれの活動が広がっていく。

【委 員】 それに関連して、南区では地域活動の在り方を考えるワークショップを行っており、NPOにまとめ役として入ってもらっている。こういうことを続けてやっていないといけない。地域も変わろうとしている。地域活動は黙っていても動くものではなくなった。指導していただく人がいて、知恵を貸していただけるのはありがたいし、いい方向に行くのではないかなと思う。

【委 員】 11 ページ「4 事業の実施状況」の基盤強化講座について、参加者が減っているが、悩んでいるNPOは多いと思うし、これからはネットワーキングが必要。先輩NPOに聞いてみようの講座は参加者が増えているため、例えば、基盤強化の話を先輩NPOにしてもらうなど、今ある講座をアップデートすることで変わってくるのではないかなと思う。

関連して、15 ページ「1 事業の進捗状況」の「一般相談の件数」についても減少しているが、専門相談は何が聞けるか明確であるため分かりやすいのでは。一般相談も、何が解決できるのか、分かりやすい事例を出して広報などをすれば、参加のきっかけになるのではないかなと思う。ニーズを拾いながら、発信の仕方を工夫するとよいと思う。

【委 員】 先ほど、場としての公民館についての話があったが、私たちの団体では、公民館から民生委員を中心に研修の受け入れをしている。毎回 20 名程いるが、1 人 1 人ととても地域に関心が高いため、公民館に所属している民生委員で人権尊重推進協議会や男女共同参画協議会の方など役割を持った方に注目したいと思った。たまたま南区老司校区に行く機会があった時に驚いたのが、子どもたちがたくさんいて、公民館はこういう場でもあるのだと思った。館

長に話を伺ったら、コロナ禍でも子どもたちが集まるような場所を意識して作ったとのことで、世代を超えた人たちが集まり、いろんなものが生まれることを体感した。やはり、公民館は小学校区単位にあり、子どもたちからすると歩いて動ける範囲だと思うので、繋がり場として本当に有効だと思った。この場に来る人たちに注目した時に、校区内でのネットワークもそうだが、校区と校区のネットワークが真似されるみたいなことがあれば、活性化のきっかけになるのだと思った。

【委員】 公民館を拠点にしてボランティア団体が生まれるような取り組みや仕組みができると、ボランティア団体が増えてくるのかと思う。そのためには、校区毎のニーズを把握するのと「あすみん」はNPO・ボランティア交流センターなので、資料にあるデータはNPO法人が中心で、ボランティア団体の数は出てこない。ボランティア団体からNPO法人になるケースは多いのではないと思う。なので、最低限ボランティア団体がどれくらいあるのかを把握する必要があるのではないか。これからのことを考えると、公民館毎にボランティア団体を形成していき、ゆくゆくはNPO法人が増えていくようなイメージかと思う。

【委員】 今のお話は大事だと思う。どのようなNPOがあるか、公民館には情報が流れていないと思う。そういった流れを作っていけたら、活動の機会ができる可能性は十分にあるような気がする。活動をNPOにサポートしてもらえらるなら可能性が生まれる。情報がいかに大事かということだが、発信の仕方は難しいと思う。

【事務局】 公民館側にNPOの情報を渡すことも大事である。ご意見いただいたようなNPO化は、ある程度のレベルになってからである。市民公益活動は自主的・自発的で小さな社会貢献活動の気持ちからはじまる。いきなり団体化、法人化というのは大きすぎるが、市民の皆さんが持っている気持ちを、何か形に出来るようなところが身近にあれば、福岡市のボランティアが育つ環境ができるのではないか。そういった場所として、公民館を活用できたら、福岡市としてはとてもよいと思う。どういうことから出来るかは分からないが、実際に活動している公民館はあると思うので、広がるきっかけを掴むことが大

事であると思う。

- 【委員】 公民館はそれぞれで努力をしており、NPOと一緒に連携して活動しているところもあるが、公民館同士で情報が広がり、それを地域が活用する機会となっていけばよいと思う。

【審議】市民公益活動の推進に係る施策 基本方針 主要施策の見直しについて

資料に基づき説明

- 【会長】 事務局からの説明についてご意見、ご質問を。
- 【委員】 「あすみん」と地域との連携を強化するために、市民公益活動推進課や「あすみん」から情報発信し、各区からも「あすみん」の情報が届くように各区地域支援課と連携していくとのことだが、それに伴い、指標をどのように見直したのか改めて確認したい。
- 【事務局】 前回の委員会で「あすみん」の周知が足りないというご意見をいただいた。前回までの指標案では、ホームページの閲覧数のみ記載していたが、こちらからの発信が大事であると認識したため、ホームページやSNSの更新回数を指標に追加した。また、地域では、ホームページやSNSを見ない方も多いので、地域団体を支援している各区地域支援課に地域から相談があった際に、「あすみん」などに繋いでもらえるよう、連携を強化していく。
- 【委員】 内部での連携強化についてはよいと思うが、指標には反映しないのか。
- 【事務局】 本来業務の中で連携が足りていなかったと認識したもので、現在取り組んでいる施策の中で推進していきたいと考えている。
- 【委員】 前回の委員会で、プロボノについて各委員から話があった。ボランティアに参加しない理由について、時間がない、きっかけがないと言われた方の年代を福岡市に調査いただいたところ 10代～40代くらいが多かった。やはり、企業へもっと呼びかけていくような取り組みが必要ではないか。「基本目標1 施策2の公益活動の担い手の育成」のところに、企業を対象としたプロボノや、ボランティアの育成として、記載した方がよいのではないか。ボランティア体験プログラムへの参加促進や子どもや若者を対象としたボランティアの育成は現在も行っており、それほど数が上がっているわけでもない

思う。さらに伸ばしていくには、ターゲットを広げた方がよいと思う。企業の方が、NPOを支援することもあるだろうし、地域を支援するということもできると思う。その時に必要なのがコーディネートだと、前回の審議会でも意見が出ていた。マッチングするにしても、活動のボリュームが分からないところに不安があるのではないかと思うので、例えば、月に1回、会計の支援をしますとか、3時間の活動に参加してもらうなど、それぞれのニーズをこちらで上げたうえで、マッチングできるような形をとっておくことで広がっていくのではないかと思う。そこが定着してくると、NPO活動やボランティア活動、地域活動に参加される方も増えるのではないか。働いていて全く接点がなく、退職して時間があるところで途切れてしまっていると思うので、少しずつ、馴染んでいくような仕組みを作り上げていってほしいと感じた。

【事務局】 いただいた意見を参考に主要施策の見直しを行ったうえで、会長へご相談したいと思うがどうか。

【会 長】 各委員の皆さんはそれでよいか。

【各委員】 異議なし。

○閉会

以上